

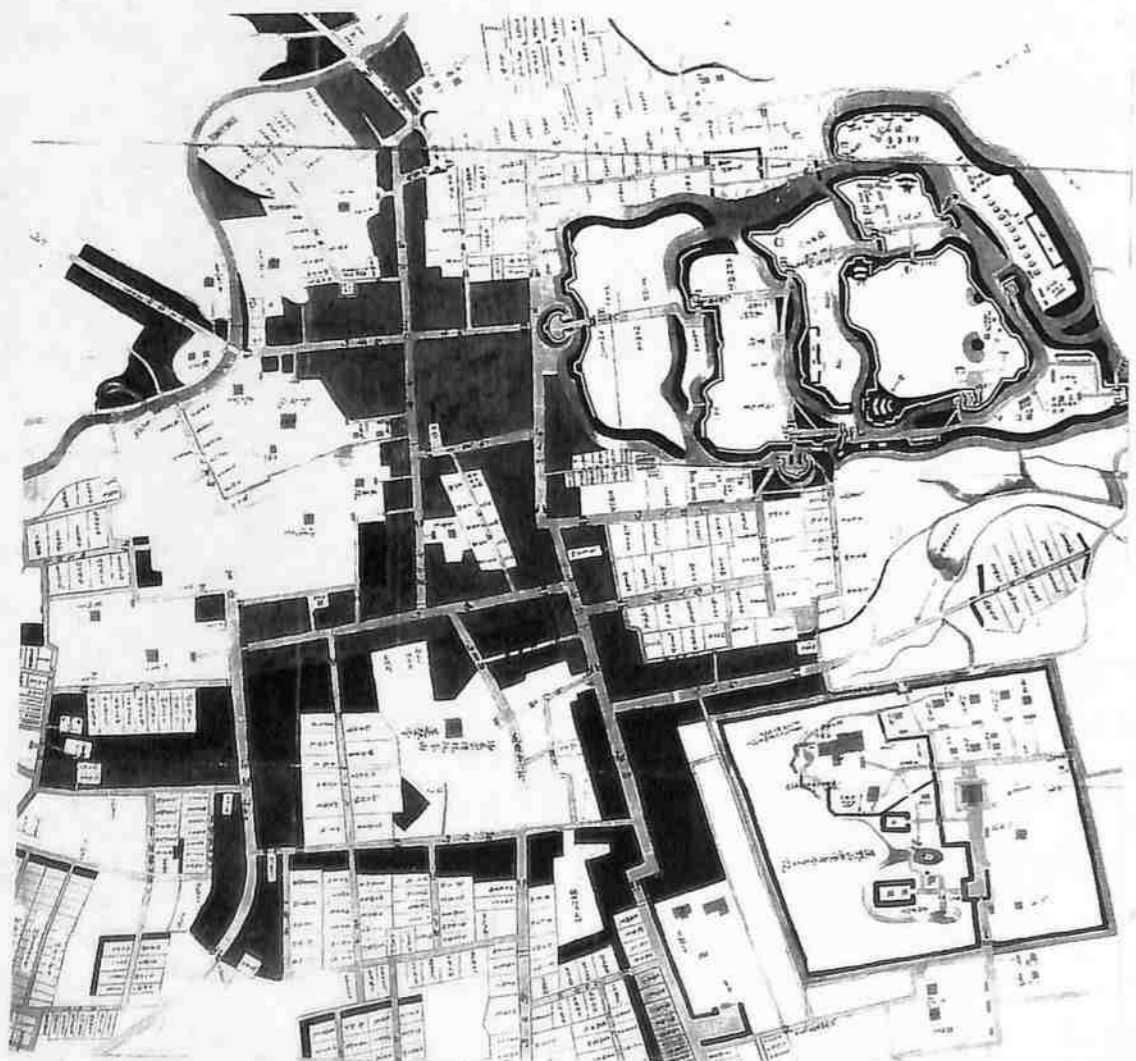


12

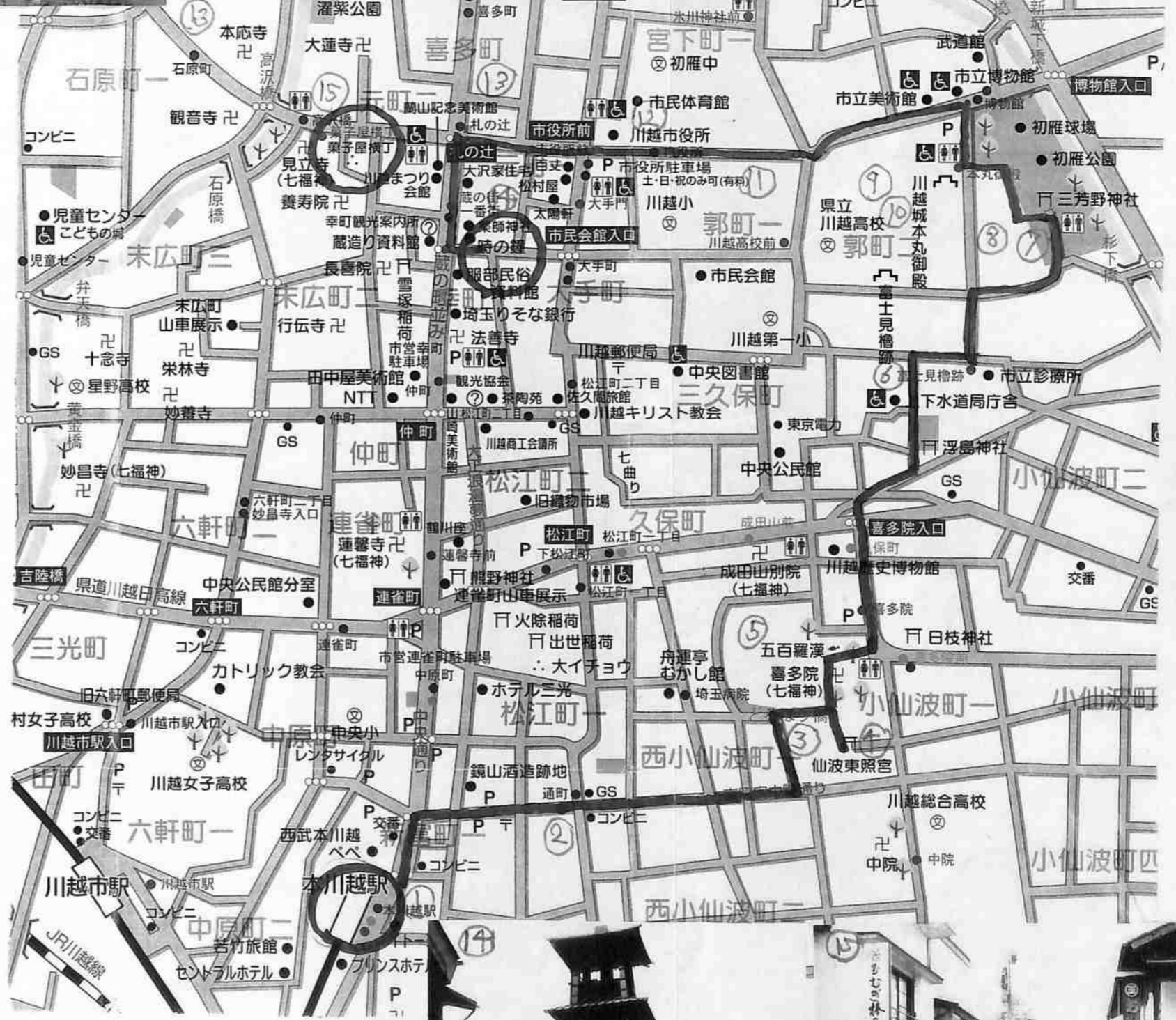
5

7

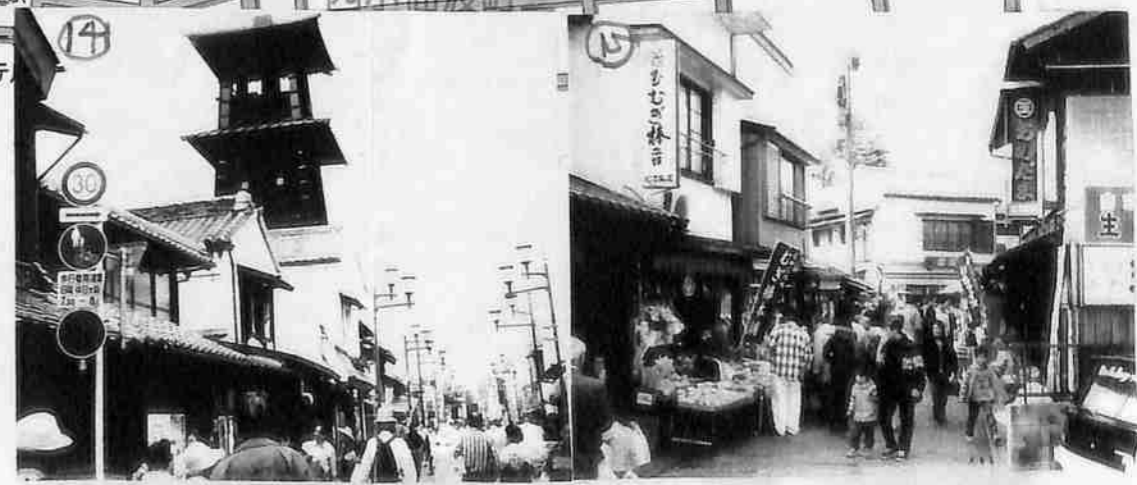
三井Vネット「ふれあい・仲間づくり=川越城と蔵の町」  
平成18年9月20日



江戸後期の川越城絵図



本日のご案内コース



三井Vネット「ふれあい・仲間づくり＝川越城と蔵の町」ご案内資料	
日時＝	平成18年9月20日(水曜日＝雨天中止)
集合＝	西武新宿線本川越駅 改札前10時スタート
主要行程＝	駅→東照宮→喜多院(有料)→三芳野神社→川越城跡初雁公園(昼食)→ 本丸御殿(有料)→大手門跡→札の辻→蔵の町→時の鐘
解散＝	15時ころ「時の鐘」解散、蔵の町、菓子屋横丁を自由見学 札の辻か一番街バス停からバス5分、本川越駅またはJR川越駅行きで

山岸弘明

1) はじめに(川越と川越城)

- ① 川越＝はじめ河肥、河越とも。3方を囲んで曲流する入間川の渡河に由来。
- ② 中世川越城＝15世紀長祿元年、太田道権築城。当時は本丸と2の丸だけ。太田氏、扇谷上杉氏の支城をへて後期は小田原北条氏領。
- ③ 近世川越城＝天正18年豊臣秀吉の小田原攻めで旧北条領は徳川家康に。寛永時代、松平信綱が城容を整え、江戸城の北西の要めとする。歴代城主は酒井忠勝、堀田正盛、柳沢吉保、松平直克ら幕府の重臣が勤める。
- ④ 土の城＝関東地区のほとんどの城と同じ土の城。石垣や天守閣はない。

2) 参勤交代も通った川越街道「通町交差点」

- ① 本川越駅前で開催式、最初の見学地・東照宮をめざしてスタート。目的地まで15分。
- ② 旧武家地を5分ほどで通町交差点へ。旧川越街道＝右へ江戸道。板橋を経由して江戸日本橋まで12里(およそ50km)参勤交代1泊2日左手にクランクを遠望＝城下町特有の防御設備。500m先に大手門。
- ③ 東照宮中院通りをすすみ小さなとこ屋さんの角を左折、いったん喜多院裏口から東照宮へ。

3) 東照宮空堀(水濠跡)とどろぼう橋(道路が狭く危険なため迂回)

- ① 空堀＝東照宮を回る。かつて外側にもう一重、喜多院水濠と土塁、白壁塀が巡る。川越城の守り。戦時は外郭として機能させる。
- ② どろぼう橋＝むかし1本橋で、捕手に追われた泥棒が治外法権の喜多院に逃げ込んだが、寺僧に捕らえられ、み仏の教えで改心したという。
- ③ 橋から中は縮小された現在の喜多院。川越藩主松平越前家支藩大和守家墓所を遠望。⑤朝矩、⑥直恒、⑦直恩、⑧斉典、⑩直候5代が眠る。



←通町交差点

↑本川越駅前 ↓仙波東照宮



↓松平大和守家墓所

4) 3大東照宮の1つ華麗な仙波東照宮(特別開門)

- ① 往時は喜多院の一部。日光、久能山と並ぶ3大東照宮の1つ。
- ② 徳川家康は元和3年いったん久能山に埋葬されたが、幕府の政治顧問でもあった喜多院・天海僧正の主張で日光廟への移葬が決まる。途中当地で4泊、跡地に東照宮を創建、直後の川越大火で焼失するが、③代将軍家光が再建。
- ③ 隋身門＝国指定重要文化財。寛永17年造立。切妻造りトチ、銅板葺き、3間1戸8脚門。隋臣と後水尾天皇勅額はない。石鳥居＝寛永15年、造宮奉行で当時の川越城主、堀田正盛奉納。葵紋石灯籠＝元禄15年、5代将軍綱吉の寵臣で当時の川越城主、柳沢吉保寄進など
- ④ 拝殿、幣殿＝重要文化財。寛永17年建立。入母屋造り、銅板葺き、桁行3間、梁間2間、正面に向拝。権現造り。三十六歌仙を描いた土佐光信の板絵額を飾るが見えるか?
- ⑤ 唐門、みず垣＝重要文化財。平唐門は本殿の正面入口。透け塀。
- ⑥ 本殿＝寛永17年家光建立の重要文化財。普段の平日は施錠、とくにお願いして開門していただきます。3間社流れ造り、銅瓦ぶき。極彩色、金箔や華麗な飾り金具も注目。

5) 江戸城から③代将軍家光誕生の間と春日局化粧の間を移築した喜多院

- ① 天台宗関東総本山。通称川越大師、正式寺名は「星野山無量寿寺喜多寺」
- ② 慶長4年、徳川家康の政治顧問・天海僧正が中興。寺領500石。天海は秀忠、家光も補佐して幕政に多大な影響力を持った。
- ③ 寛永15年川越大火で焼失。家光が江戸城本丸建物4棟を寄進。
- ④ 鐘楼門と梵鐘＝重要文化財。入母屋造り、袴腰つき。梵鐘は元禄12年銘銅鐘。慈眼堂＝重要文化財。宝形造り3間堂。木造天海僧正(慈眼大師)像を祀る。
- ⑤ 職人尽絵(展示は写し)＝重要文化財。狩野吉信筆。当時の職人の風俗を知ることができる。
- ⑥ 客殿＝重要文化財。桁行8×梁間5間。入母屋屋根こけら葺き、渡廊付き。旧江戸城紅葉山慶長期の建物。内部は6室、奥12畳半の上段の間が家光誕生の間。狩野探幽の墨絵山水画、格天井に花模様。將軍の来訪はなかったが御成御殿とされた。
- ⑦ 書院＝重要文化財。江戸城移築建造物。寄棟屋根、こけら葺き。桁行6×梁間5間、一部中2階。家光のうば春日局化粧の間。
- ⑧ 庫裡＝重要文化財。江戸城移築建造物。入母屋、寄棟屋根、銅板葺き。桁行10×梁間4間。一部2階建て。小玄関、式台と3室。柱が太く武家屋敷の玄関構えを思わせる。
- ⑨ 多宝塔＝県指定文化財。寛永16年。本瓦葺き3間多宝塔。五百羅漢＝江戸中期天明2年発願、50年後の文政8年完成。全535体、同じ像はない。
- ⑩ 山門と番所＝重要文化財。寛永9年、唯一川越大火免れる。けやき造り、切妻造り四脚門。



枯山水庭園



喜多院本堂



職人尽絵



↑家光誕生の間



天海僧正



↑多宝塔

5  
6) 田郭から川越城内へ。天守閣代わりの富士見櫓跡（遠望）

- ①城の南側・田郭から城内へ。水道浄水場一帯は都市化のため土塁や濠を破壊、しかしよく観察すると水濠跡や城門跡が地形として残る。
- ②富士見櫓（ご三階櫓）跡=御三階櫓はあえて天守閣とよばない。譜代諸侯が江戸城外郭としての心意を示したものでしょうか。御三家の水戸城以下、佐倉、古河、関宿城なども御三階櫓。飾り破風のない質素な三重櫓。通常武器庫で施錠、藩主も一生に1、2度しか立ち入ることはなかった。

7) みんな知ってる「とうりゃんせの細道」三芳野神社

- ①平安はじめ大同2年の創建。のち菅原道真を祀る。城の鎮守で、徳川家康が朱印20石を寄進、江戸時代を通じて川越歴代城主に崇敬された。
- ③童謡「とうりゃんせ」の舞台。寛永時代、城内に繰り込まれて一般の参詣は年に一度の祭礼だけになった。いくつもの城門をくぐって本丸近い。帰り道を間違えたら大変「怖いながらもとうりゃんせ」となった。
- ④拝殿、幣殿、本殿からなる権現造り社殿。屋根入母屋造り銅板葺き。朱塗り、飾り金具、黒漆塗りなど安土桃山時代の壮麗な建築様式を伝えている。

8) 初雁公園で持参のお弁当をひらく

- ①初雁公園=本丸一帯の公園で県の指定史蹟。初雁の杉は三芳野神社神社背後にあった古杉。カリが飛来するたびに必ず止まって3声鳴いたという。
- ②本丸濠跡周辺で昼食。後方の高台は本丸土塁、櫓が置かれた。

川越城の概要（歴史と構造）

- ①歴代城主=別掲。幕府は江戸城の東北の要として徳川一門、譜代重臣を配置した。  
 酒井忠勝=3代将軍家光期の老中、大老。政治顧問。死後は遺命により4代家綱を補佐した。  
 堀田正盛=家光の寵臣で首席老中。寛永期の幕政の中心となり、家光に殉死した。  
 松平信綱=家光、家綱期の老中。才知に富んで信任も絶大。知恵伊豆として知られた。  
 柳沢吉保=5代将軍綱吉期の老中、大老格。綱吉と桂昌院の信任をえて文治政治を推進した。  
 松平齊典=天資英明で大和守家川越藩政の頂点にたつ。藩校、文化政策などを積極的にすすめた。  
 松平直克=幕末期の政治総裁にすすむが、領内では一揆が多発、分領の前橋に城地を移した。
- ③寛永時代、松平信綱時代に整備された近世平城。  
 敷地面積およそ5万坪。4重の水濠に囲まれ、本丸、2の丸、3の丸、中郭、追手郭、天神郭、帯郭、田郭の8郭からなる。かつて本丸御殿をめぐる富士見櫓、虎櫓、菱櫓などを配し、城門も12を数えた。現存の本丸御殿は全体の4分の1にも満たないが川越城の歴史をしるのばせる。
- ④明治維新後、一時川越県庁を置くが入間県に合併。明治5年廃城。本丸御殿家老詰所など建物は払下げ、取り壊されたが、本丸御殿は公会所、専売局、武道館などに使用されたので一部が残った。城地は川越市役所、川越高校、初雁中学校、第1小学校、市営球場と一般民家や商店に変わり、ほとんどが破壊された。



五百らん



富士見櫓跡



三芳野神社



香多院山内

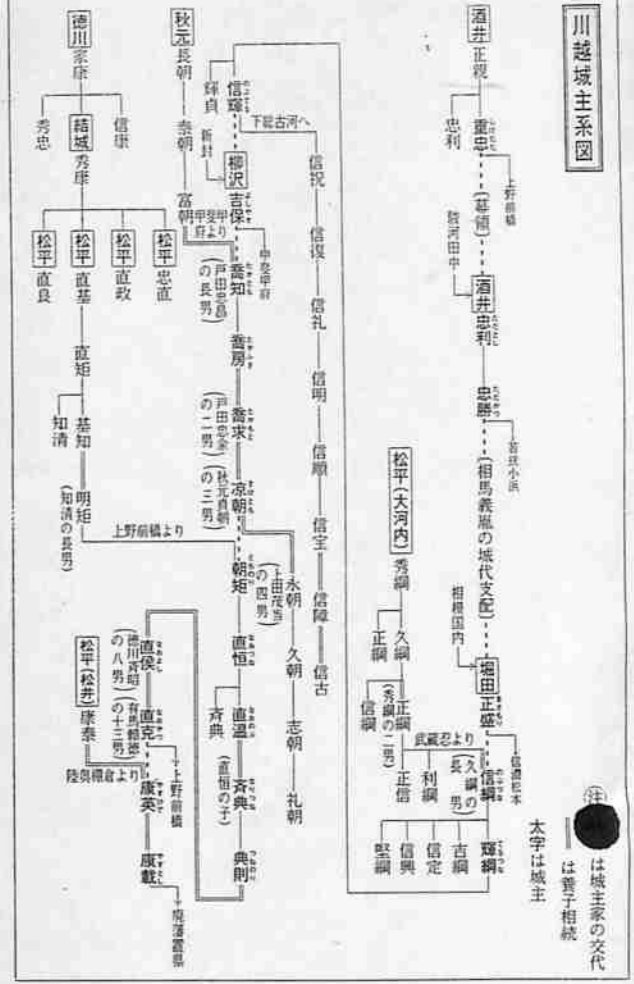
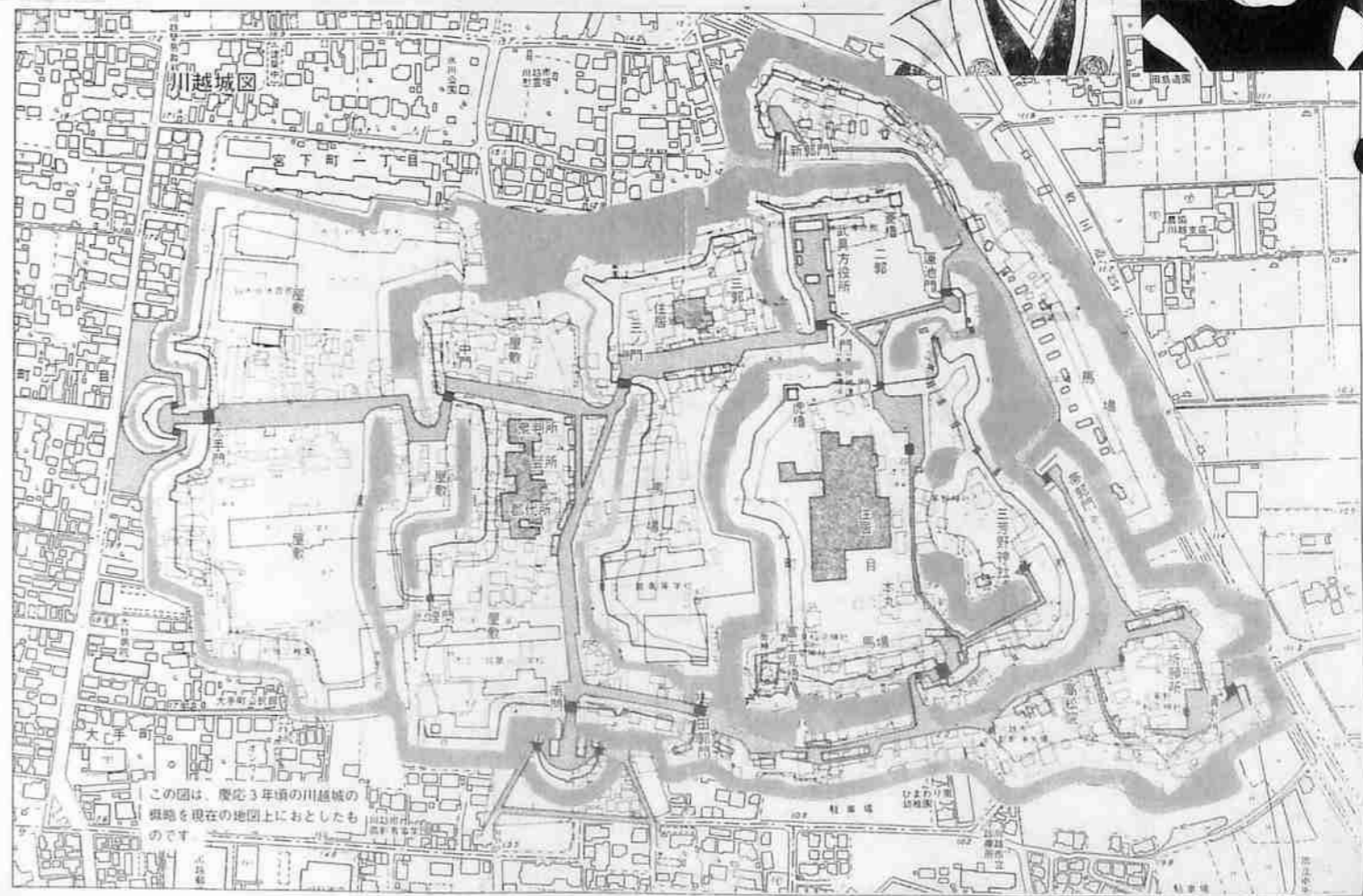
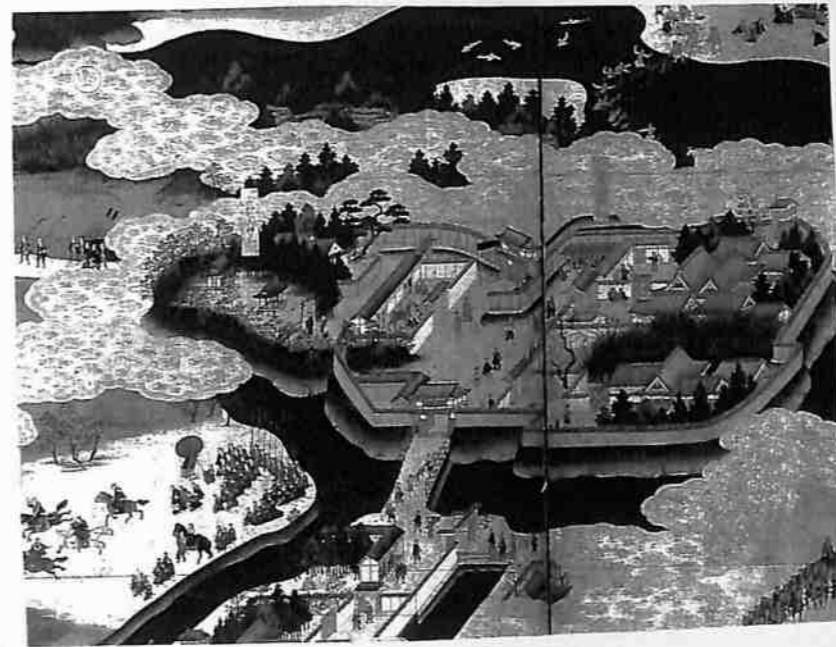


川越城本丸模型



大平門跡

江戸図のノボ



松平信綱 柳沢吉保



10) 日本にただ2つしかない現存本丸御殿、家老詰所(復元)

- ①江戸後期嘉永元年造営の本丸御殿の一部が現存、玄関部分と家老詰所などを一般公開。全国に2の丸御殿はあるが本丸御殿は高知城と2城しか現存しない。
- ②桁行19間×梁間4間、屋根入母屋造り、棧瓦葺き、正面に2間の大唐破風玄関
- ③大唐破風玄関。霧よけ(車寄せ)、式台。この玄関から参勤交代がスタート。
- ④大広間、使者の間、使番詰所、槍の間
- ⑤家老詰所=明治維新後上福岡市内に移築、旧地に復元。重職詰所の現存は大変めずらしい。

11) 2の丸、3の丸、外郭をすすむ

- ①城内2の門、3の門を横切って大手門跡へ。
- ②2の丸=2の門。武具方役所、菱櫓。現在は川越市立博物館
- ③3の丸=3の門。3の丸御殿、馬場。川越高校、民家中郭=中門、衆判所、会所、郡代所、上級藩士邸。川越第1小学校、民家
- ④追手郭=上級藩士邸。川越市役所、市民体育館、初雁中学校、川越小学校

12) 大手門跡いま市役所に

- ①太田道権像=川越城、江戸城築城者。15世紀室町中期の武将。関東管領上杉定正に仕え、武功をたてて主家の興隆をはかったが中傷をうけて暗殺された。
- ②大手門碑=川越市役所前大手濠に大手門が置かれた。両袖を土塁、白壁で囲んだ櫓門?
- ③馬出し=城門前の防御土塁。前面に水濠を配した丸馬出し。戦時は馬を潜ませ一気に繰り出した。

13) 札の辻、蔵造りの家並みをすすむ

- ①札の辻=高札場のこと。城下の盛り場におかれた。
- ②蔵造りの家並み=一番街から仲町にかけての道路両側に続く。新河岸川の水運によって江戸への物資供給地として栄え、小江戸といわれた名残。現存建物は明治の大火以後のものだが、かつての江戸の佇まいを彷彿させる。
- ③大沢家住宅=土蔵作り店蔵の代表的家屋。元藩御用商人西村半右衛門家で大正年間に大沢家が購入した。2階建て切妻造り、瓦葺き、間口6間、奥行4間で前面に庇がある。数少ない江戸時代、寛政4年建立の国指定重要文化財。
- ④蔵造り資料館  
明治26年建築。店蔵に続いて住宅棟があり、明治時代の生活の様子を垣間見れる。入館料100円。希望者はこの後の自由行動で立ち寄ってください。

14) 川越のシンボル時の鐘、いまはコンピューターが時を知らせる

- ①城下に時刻を知らせた鐘櫓。高さ16m。家並みを圧してそびえる眺めは城下町川越のシンボル。
- ②江戸はじめ(寛永ころ?)から。火災など度々建て替えられ、現在のものは明治27年、梵鐘には川越鋳物師矢沢四郎左衛門改鋳の銘。
- ③毎日6、12、15、18時を知らせているが現在はコンピューターの機械突き。
- ④時の鐘で解散、以降自由行動とします。

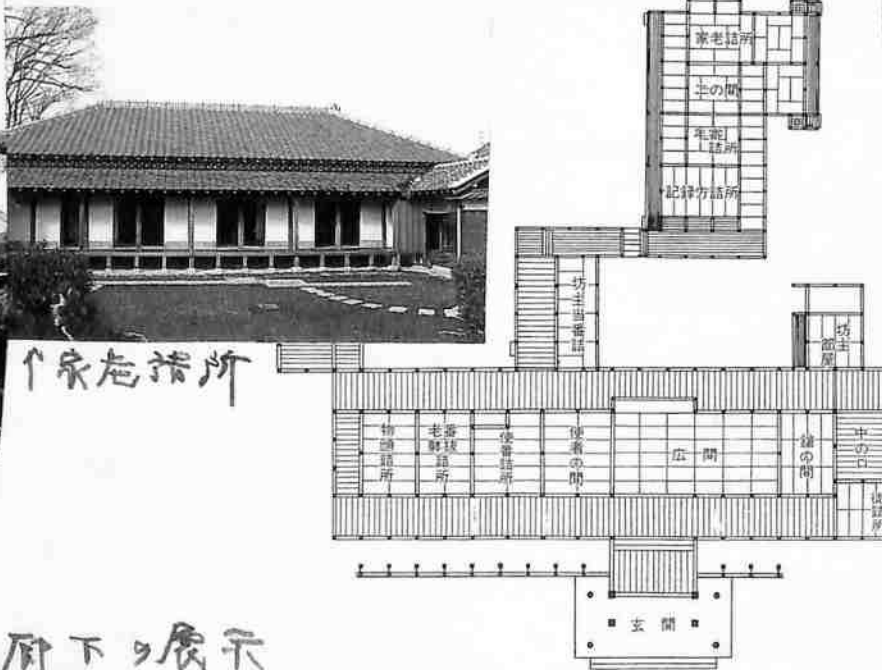
15) まわりは蔵の町、菓子屋横丁……。解散後ゆっくりと散策を楽しんでください

- ①蔵造りの家並み、菓子屋横丁を覗きながら思い思いにどうぞ。
- ②菓子屋横丁=それぞれ工夫を凝らした駄菓子などを製造、販売している。おみやげにどうぞ。
- ③スタートの本川越駅まで徒歩20分、バスはひんぱん近くのバス停からどうぞ。

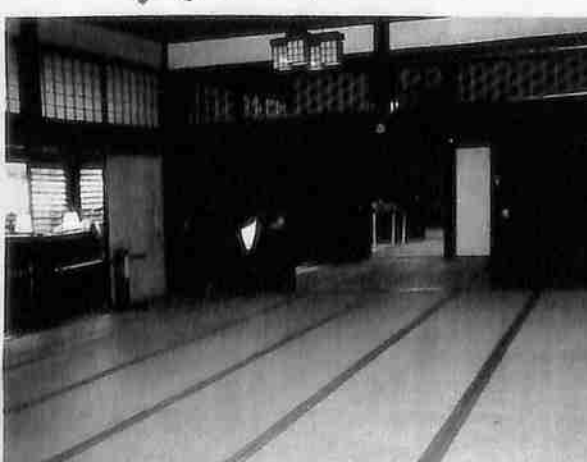
以上



川越城本丸行成玄内  
↓方向



↑家老詰所  
↓厨下展示



大沢家住宅